

令和6年4月1日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

群馬県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
伊勢崎市立北小学校（外22校）	伊勢崎市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
伊勢崎市立北小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立南小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立殖蓮小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立茂呂小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立三郷小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立宮郷小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立名和小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立豊受小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立北第二小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立殖蓮第二小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立広瀬小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立坂東小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立宮郷第二小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立赤堀小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立赤堀南小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立赤堀東小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立あずま小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立あずま南小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立あずま北小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立境小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立境采女小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立境剛志小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表
伊勢崎市立境東小学校	学校通信及び学校 HP で公表	学校通信及び学校 HP で公表

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、平成24年度より、小学校第1学年～中学校第3学年において小中9年間の一貫した英語教育を行っている。グローバル社会に対応し国際社会で生きる力を身に付けるために、小学校第1学年～6学年において、教科「英語科」を設定し、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、特別の教育課程による指導を実施している。

現在、1学年は生活科を34時間を削減して英語科に充てている。また、モジュールプログラムによる英語科を1学年は34時間、2学年は35時間の増設をし、45分の授業の中で学習した内容について、短い時間の中で、楽しみながら繰り返し英語の音声に慣れ親しめるようにしている。

3、4学年は、総合的な学習の時間35時間と外国語活動の計70時間を削減して英語科に充てている。この内35時間をモジュールプログラムによる英語科に充て、音声と綴りを関連付けるための「読むこと」「書くこと」の活動を行えるようにしている。

5、6学年は英語科を45分の授業として70時間実施し、1～4学年までの英語科での学びを生かした体系的な学習を行っている。身近な事柄について扱う言語活動や音声及び発音と綴りとを関連付ける指導を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するとともに、中学校へのより円滑な接続を目指している。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市では、英語教育の目的は、子どもたちが全人的に成長し、グローバル社会において主体的に生きていく資質や能力を身につけることであると考えている。そこで、単に能力や技能といったスキルの習得だけではなく、コミュニケーションの体験を通して、異文化を理解し、国際社会に貢献できる児童・生徒の育成することを目指している。

そのため、平成18年度より、全小学校において英語活動に取り組むとともに、中学校では小学校英語との接続を踏まえ英語指導の充実を図ってきた。また、平成21年度から23年度にかけて文部科学省の指定である「教育研究開発事業（英語教育関係）」に取り組み、指定中学校区内の小中学校3校において、小中9年間のつながりを重視したカリキュラムを開発、策定し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。平成24年度には指定地域、平成25年度からは市内すべての小学校における第1学年～6学年で、教科「英語科」を取り入れた独自の教育課程を実施している。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月より

(4) 取組の期間

令和12年3月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒ 計画通り実施できている
- ☐ 一部、計画通り実施できていない
- ☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している
- ☐ 実施していない

<特記事項>

情報提供は、本資料の伊勢崎市ホームページ掲載による。

4. 実施の成果及び課題

(1) 成果

特別の教育課程をより効果的に実施するため、伊勢崎市独自のプログラムを作成し、全小学校の全学級においてALT、またはイングリッシュサポーターと担任のチームティーチングを週に1時間は実施できるようにしており、一定の成果が得られていると捉えている。

(2) 課題

継続的にカリキュラムや指導内容を見直し、より滑らかな小中学校の接続となるよう授業改善を継続することが課題であると捉えている。今後も小中9年一貫指導における英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目指し、英語で語り合える力を伸長できるように努めていきたい。